



2019年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年2月8日

上場会社名 株式会社博展
 コード番号 2173 URL <https://www.hakuten.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 田中 雅樹

TEL 03-6278-0010

四半期報告書提出予定日 2019年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	9,431	10.4	426	1.9	420	1.7	299	53.0
2018年3月期第3四半期	8,542	31.2	418		413		195	

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 299百万円 (64.3%) 2018年3月期第3四半期 182百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	76.97	73.78
2018年3月期第3四半期	50.80	49.22

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	5,146	1,227	23.8	310.94
2018年3月期	5,258	1,067	20.3	276.74

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 1,225百万円 2018年3月期 1,066百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当期首より適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		16.00	16.00
2019年3月期		10.00			
2019年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	6.1	500	9.8	487	7.7	320	34.7	83.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) タケロボ株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期3Q	3,941,500 株	2018年3月期	3,855,200 株
期末自己株式数	2019年3月期3Q	41 株	2018年3月期	22 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期3Q	3,893,426 株	2018年3月期3Q	3,855,200 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
売上高	8,542	9,431	888	10.4
売上総利益 (%)	2,228 (26.1)	2,377 (25.2)	149	6.7
営業利益 (%)	418 (4.9)	426 (4.5)	7	1.9
経常利益 (%)	413 (4.8)	420 (4.5)	7	1.7
親会社株主に帰属する四半期純利益 (%)	195 (2.3)	299 (3.2)	103	53.0

(注) 売上総利益、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益の下段に記載している数値は、それぞれ売上高に対する割合を示しております。

当社グループの主要領域である広告・イベント業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」(2019年1月22日発表)によると、広告業のうちSP・PR・催事企画における売上高は、2017年12月から2018年11月の累計実績が前年同期比92.8%といった状況になっております。このような環境の中、当社グループは、今期より新たに設定した中期ビジョン「ココロ揺さぶる瞬間(とき)を創り、世の中を次へ動かす」の実現に向けて努めております。

当事業年度においては、安定した採算構造の確立を目指すべく、顧客に寄り添う課題解決型の営業活動による指名受注の増加と、各商材で培ったノウハウを活かし顧客1社あたりの売上高の向上に取り組むと共に、採算性を重視した業務オペレーションの実行等によりプロジェクト毎の利益確保に注力しております。また、販売費及び一般管理費率の改善を図るべく徹底したコスト管理を継続することで、更なる収益力の強化を図っております。その上で、次の成長に向けた経営基盤の構築を推進すべく、以下の重点分野にフォーカスした投資を行ってまいります。

- ① Experience Marketingに関する専門性の高い人材の採用・育成への投資
- ② リアル接点におけるマーケティング効果に資する新商材開発への投資
- ③ 業務効率化、生産性向上に資するシステム開発への投資

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、94億31百万円(前年同四半期比10.4%増)となりました。各商材カテゴリー別の売上高の状況は、次のとおりです。

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
展示会出展	2,924	2,719	△205	△7.0
イベントプロモーション	1,219	2,697	1,477	121.2
商談会・プライベートショー	1,452	1,997	544	37.5
カンファレンス・セミナー	882	450	△432	△49.0
商環	1,284	749	△534	△41.7
デジタル・コンテンツ&マーケティング	671	719	47	7.1
その他	107	98	△8	△8.2
売上高合計	8,542	9,431	888	10.4

顧客深耕による課題解決型の営業活動に注力すると共に、顧客のニーズを実現するクリエイティブ力と実行力を強みに積極的な新規営業を展開したことにより、イベントプロモーション、商談会・プライベートショーを中心に売上高が増加しました。

イベントプロモーションにおいては、自動車・化粧品・嗜好品の業界を中心に、大型案件や通年型のプロモーション案件などの新規受注を獲得したことにより売上高は倍増しました。商談会・プライベートショーにおいては、リピート案件を確実に受注できたことに加え、大型のプライベートショーや合同展示会の基礎案件を獲得し、案件数及び案件単価が増加しました。

売上総利益は、23億77百万円(前年同四半期比6.7%増)、売上総利益率は25.2%(前年同四半期は26.1%)となりました。売上高の大幅な増加に伴い、社外リソースの活用により外注費率が上昇したことで売上総利益率は低下したものの、前述のとおり売上高が増加したことにより、売上総利益は増益となりました。

販売費及び一般管理費は、19億51百万円(前年同四半期比7.8%増)、販売費及び一般管理費率は20.7%(前年同四半期は21.2%)と、0.5ポイントの改善となりました。これは、重点分野への投資も実施しつつ、売上高の増加に対し、販売費及び一般管理費を一定水準に維持すべくコスト管理の徹底に取り組んだこと等によります。

この結果、営業利益は4億26百万円(前年同四半期比1.9%増)、経常利益は4億20百万円(前年同四半期比1.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億99百万円(前年同四半期比53.0%増)となりました。

当第3四半期累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業^{※1}

当第3四半期連結累計期間におけるリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、88億58百万円(前年同四半期比11.3%増)、セグメント利益は5億52百万円(前年同四半期比10.1%増)となりました。

これは、前述のとおり、イベントプロモーション、商談会・プライベートショーを中心に売上高が増加し、セグメント利益においては、プロジェクト毎の利益確保に注力したことに加え、コスト管理の徹底による改善効果によるものです。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業^{※2}

当第3四半期連結累計期間におけるデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、6億62百万円(前年同四半期比3.6%減)、セグメント損失は82百万円(前年同四半期はセグメント損失27百万円)となりました。

これは、グループ各社の営業活動が堅調に推移し、効率性を重視したコスト・マネジメントの徹底が図られた一方で、サービス開発に伴うコストが増加したことによるものです。

※1：展示会・イベント等、人と人が直接出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experienceマーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。

※2：インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築やアプリケーション制作をはじめとし、ビジネス向けアプリ制作・配信・管理プラットフォームやAI・コグニティブ領域、ロボティクスなど、最先端のデジタル・テクノロジーを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、資産合計51億46百万円(前連結会計年度末比2.1%減)、負債合計39億19百万円(前連結会計年度末比6.5%減)、純資産合計12億27百万円(前連結会計年度末比14.9%増)となりました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は40億23百万円(前連結会計年度末比1億10百万円増加)となりました。これは、仕掛品が前連結会計年度末比1億5百万円増加したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は11億22百万円(前連結会計年度末比2億22百万円減少)となりました。これは、繰延税金資産が前連結会計年度末比44百万円減少したこと、のれんの償却により前連結会計年度末比40百万円減少したことが主な要因となっております。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は33億72百万円(前連結会計年度末比1億28百万円増加)となりました。これは、短期借入金が前連結会計年度末比12億68百万円増加したものの、買掛金が前連結会計年度末比で5億37百万円減少したこと、1年以内返済予定の長期借入金が前連結会計年度末比で3億18百万円減少したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は5億46百万円(前連結会計年度末比4億円減少)となりました。これは、長期借入金が前連結会計年度末比で3億76百万円減少したことが主な要因となっております。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は12億27百万円(前連結会計年度末比1億59百万円増加)となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等により利益剰余金が1億58百万円増加したことが主な要因となっております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績経過は、概ね計画通りに推移しているため、通期の業績予想につきましては、2018年5月11日の決算発表時に公表いたしました業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,140,747	1,981,110
受取手形及び売掛金	2,452,780	1,568,461
仕掛品	236,467	342,274
原材料及び貯蔵品	2,095	2,050
その他	83,438	130,801
貸倒引当金	△2,472	△1,250
流動資産合計	3,913,058	4,023,449
固定資産		
有形固定資産	261,368	236,930
無形固定資産		
のれん	163,041	122,280
その他	603,009	492,147
無形固定資産合計	766,050	614,428
投資その他の資産		
長期貸付金	-	61,000
その他	319,407	272,675
貸倒引当金	△1,223	△62,176
投資その他の資産合計	318,184	271,499
固定資産合計	1,345,603	1,122,858
資産合計	5,258,661	5,146,308
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,023,559	486,378
短期借入金	312,000	1,580,000
1年内返済予定の長期借入金	997,123	679,115
未払法人税等	219,138	37,558
賞与引当金	263,603	140,049
工事補償引当金	1,973	2,062
工事損失引当金	300	1,598
その他	426,446	446,199
流動負債合計	3,244,145	3,372,963
固定負債		
長期借入金	869,874	492,901
その他	76,821	53,315
固定負債合計	946,696	546,216
負債合計	4,190,841	3,919,179
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,449	174,891
資本剰余金	289,331	289,691
利益剰余金	597,931	756,125
自己株式	△27	△63
株主資本合計	1,061,685	1,220,644
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,205	4,920
その他の包括利益累計額合計	5,205	4,920
新株予約権	929	1,562
純資産合計	1,067,820	1,227,128
負債純資産合計	5,258,661	5,146,308

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	8,542,690	9,431,084
売上原価	6,314,214	7,053,299
売上総利益	2,228,475	2,377,784
販売費及び一般管理費	1,810,247	1,951,713
営業利益	418,228	426,071
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	185	203
貸倒引当金戻入額	-	1,651
物品売却益	3,979	-
違約金収入	-	1,222
雑収入	2,819	1,096
営業外収益合計	6,987	4,174
営業外費用		
支払利息	10,810	9,208
雑損失	929	340
営業外費用合計	11,740	9,549
経常利益	413,475	420,697
特別利益		
固定資産売却益	-	108
持分変動利益	-	47,539
特別利益合計	-	47,648
特別損失		
固定資産除却損	114	106
のれん償却額	31,316	-
減損損失	59,538	-
特別損失合計	90,968	106
税金等調整前四半期純利益	322,506	468,238
法人税、住民税及び事業税	138,680	126,576
法人税等調整額	2,288	41,978
法人税等合計	140,968	168,554
四半期純利益	181,537	299,684
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△14,325	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	195,862	299,684

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2017年4月1日 至 2017年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）
四半期純利益	181,537	299,684
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	729	△284
その他の包括利益合計	729	△284
四半期包括利益	182,267	299,399
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	196,592	299,399
非支配株主に係る四半期包括利益	△14,325	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	デジタルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,953,178	589,511	8,542,690	-	8,542,690
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,631	97,808	107,440	△107,440	-
計	7,962,810	687,320	8,650,130	△107,440	8,542,690
セグメント利益又は損失(△)	501,355	△27,407	473,948	△55,720	418,228

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△55,720千円は、のれんの償却額△49,301千円、セグメント間取引△6,419千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業セグメントにおいて、技術に基づく無形資産について31,775千円の減損損失を計上しております。また、将来の収益性がないと判断したソフトウェア等について、回収可能額がないものと評価し、27,763千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業セグメントにおいて、子会社への投資に係るのれんを償却(特別損失)したことにより、のれんが31,316千円減少しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	デジタルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,857,315	573,768	9,431,084	-	9,431,084
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,595	89,150	90,746	△90,746	-
計	8,858,911	662,919	9,521,830	△90,746	9,431,084
セグメント利益又は損失(△)	552,029	△82,996	469,032	△42,960	426,071

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△42,960千円は、のれんの償却額△40,760千円、セグメント間取引△2,200千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

② 受注状況

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

前第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	8,183,438	132.4	2,521,135	114.5
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	488,071	84.7	227,678	75.7
合計	8,671,509	128.3	2,748,814	109.8

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	9,327,715	114.0	2,991,535	118.7
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	589,750	120.8	243,660	107.0
合計	9,917,465	114.4	3,235,195	117.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

前第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	7,953,178	131.0
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	589,511	134.2
合計(千円)	8,542,690	131.2

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	8,857,315	111.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	573,768	97.3
合計(千円)	9,431,084	110.4

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。